

ダイアリー 24/9/07

やあ、みんな

ええと、まずは、最近1ヶ月前にダイアリーを書いた時より、僕はずっとハッピーだということ報告するね。その理由は主に、新たにリチャード・ロジャーズのプロジェクトのワークショップをして過ごしたここ2週間が最高だったからなんだ。ミュージカル監督兼編曲のリチャード・バルコムと3日間骨組みとミュージカルの構成を考え、レベッカ・サザランド、ピア・ドライバー、トム・ドワイアー、アイザック・ジェームズの4人のダンサー、そしてアシスタントとして我が愛する妻サラ・ウィルドーと、ショーのダンススタイルを7日間いろいろ検討した。

自分が考案するショーの仕事をするのはいつも楽しいけれど、今回は(楽しかった「サイド・バイ・サイド」は除いて)最悪の1年を過ごした後だけにいつそう素晴らしくて、一瞬一瞬が楽しく、終わりが来なければいいのにと考えた。それにこんなに才能があって、想像力をかき立たせてくれるダンサー達と一緒に仕事ができ、また僕自身も再び踊れて、最高の気分だった。言うのがちょっとためられるけど、僕が「ちゃんとした」ダンスをしてから、本当にもう2年も経っているんだよね。ありがちな話だけれど、演技や振付をしていると、自分が身体を動かしたいと思っても、毎日踊っている時のようには時間が取れないんだ。で、僕の身体は今まだ回復途中。でも嬉しいことに苦労してるのは僕一人じゃないし、とにかくいつだってやってみる価値はあるよね！

金曜日、ワークショップの最終日に、プロデューサーやプロジェクト関係者に対して、ちょっとしたプレゼンテーションをしなければならなかった。彼らが何を期待しているか、自分がしたことを気に入ってくれるかどうか全然分からないから、こういうのっていつも神経をすり減らすものだけど、さらに悪いことに、メアリー・ロジャーズ(リチャード・ロジャーズの娘で、彼女自身もミュージカルの作曲家)とその夫まで、アメリカの権利者と、(僕がよく知っている、前に一緒に仕事をした)東京のTBSのプロデューサー2名と一緒に来ていたんだ。僕はほとんど全てのダンスを踊ってみせて、各ダンスの合間には何をしているかを話してきかせ、かつ息も整えなければならなかったから、特に神経をすり減らしたよ。幸い僕らが見せた内容をみんな楽しんでくれたようで、ショーのアイデアも気に入ってくれたみたいだから、将来の見通しはとてもポジティブな感じ。スタートはどうやら2009年になりそうだから、しばらく待たなければならないのが残念だけど、待ただけの価値があればいいなと思っている。

今度はサラに関するニュースを少し。今日サラは、「ユー・キャン・テイク・イット・ウィズ・ユー」という芝居のリハーサルを始めたんだ。モス・ハートとジョージ・カウフマン作の傑作コメディで、サラの役はエッシー。上演は10月24日から11月17日までサザーク・プレイハウスで、監督はギャビン・マカリンデン。みんな、できたらサポートしてあげてね。彼女は絶対素晴らしいから。

僕については、他に決まっているニュースはなし。ただ複数のアイデアを考え中で、プロジェクトについての話をいろいろな人達にしているところ。でも本当に、ぜひすぐまた公演に戻りたいと思っている。何でもいから、また観客の前に立ちたくてしかたないんだ。

じゃあ、みんな元気で
アダム x